

ポニーリーグの新潟・福島連合チーム 投手は福島、一塁手は新潟と違うユニホームの連合チーム



新潟・福島連合 絆強める奮戦

中学硬式野球ポニーL全日本選手権予選

これまで交流があった両チームはともに3年生が抜けてメンバー不足となり、昨秋に合同チームを結成。その後、原発事故の影響で福島は練習時間が制限されたこともあり、ぶっつけ本番となった春季大会初戦はコールド負け。それでも試合を重ねるたびに選手が声をかけ合っていた。ミスをかばうことができるようになった。

試合ではそれぞれのユニホームを着用するが、「かぶる数字は福島さんが変えてくれて」

(新潟・笹川信之事務局 長) 同じ背番号はなし。元福島県高野連会長の玄永清久・福島ポニー代表は「合同チームだと、自分たちにはない色も出せる。選手にはいい経験になっている」と話した。



「最初は戸惑いもあったけど友だちになれたし、性格も分かった」とチームの一体感に胸を張った。

が、福島の三浦慎之介主将(伊達市立梁川中3年)は「最初は戸惑いもあったけど友だちになれたし、性格も分かった」とチームの一体感に胸を張った。

予選では清瀬、小平(いずれも東京)に5-8、1-2と連敗。2次予選2勝2敗で全日本出場となる3位以内を逃した。福島の三浦慎之介主将(伊達市立梁川中3年)は「最初は戸惑いもあったけど友だちになれたし、性格も分かった」とチームの一体感に胸を張った。